

社会保険委員会

委員長：金子 剛

委員：相原 正記、井砂 司、井上要二郎、宇田川晃一、大久保文雄、
大城 貴史、大西 清、荻野 浩希、垣淵 正男、川嶋 邦裕、
小室 裕造、島田 賢一、関口 順輔、関堂 充、土井 秀明、
鳥山 和宏、難波祐三郎、二ノ宮邦稔、野村 正、前川 二郎、
村上 正洋、村上 隆一、矢野 健二

開催年月日：①平成 25 年 4 月 3 日(全体)、②平成 25 年 11 月 7 日(全体)

③平成 25 年 12 月 10 日～20 日メーリングリストによる委員会

④その他 適宜 e-mail 委員会

活動の概要：1. 平成 26 年度改正要望について

①厚労省ヒアリングにおいて日形会からの要望内容を説明した。

日時：平成 25 年 8 月 19 日 17:30～18:00

会場：オランダヒルズ森タワー24 階会議室

参加者：関堂委員、大西委員、村上委員、朝戸裕貴理事（JOPBS
教育研修委員長として）、金子委員長

②日形会からの改正要望のうち、今回の改正項目に含まれるものの一
覧

	要望内容	改定内容
新設	乳房再建術（ゲル充填人工乳房によるもの）	K476-4 ゲル充填乳房を用いた乳房再建術（乳房切除後）25,000 点（一次再建で K476 乳腺悪性腫瘍手術と併施した場合は 50%の算定）
	乳房皮膚延長術	K022 組織拡張器による再建手術（一連につき） 1. 乳房（再建手術）の場合 17,580 点（一次再建で K476 乳腺悪性腫瘍手術と併施した場合は 50%の算定）
	乳房再建術（遊離皮弁によるもの）	K017 遊離皮弁術（顕微鏡下血管柄付きのもの） 1. 乳房再建術の場合 84,050 点（増点）
	局所陰圧閉鎖処置（単回使用によるもの）	J003-2 局所陰圧閉鎖療法（入院外）（1 日につき） 1. 100 cm ² 未満 240 点 2. 100 cm ² 以上 200 cm ² 未満 270 点 3. 200 cm ² 以上 330 点
	デブリードマン（水圧式ナイフによるもの）	K002 デブリードマン 水圧式デブリードマン加算 2,500 点
改正	組織拡張器による再建手術（一連につき）：一連につきの削除	一連の範囲を、組織拡張器の挿入、生理食塩水等の注入及び組織拡張器の除去と規定
	乳房再建術の名称変更：一期・二期→一次・二次	要望どおり

③形成外科に関連する医療行為において増減のあった項目

a. 増点

K002 デブリードマン

3. 3,000 cm² 以上 6,250→7,600 点▲

K017 遊離皮弁術(顕微鏡下血管柄付きのもの)

1. 乳房再建術の場合 74,240→84,050 点▲

2. その他の場合 74,240→84,050 点▲

K059 骨移植術(軟骨移植術を含む。)

2. 同種骨移植(生体) 16,730→20,770 点▲

3. 同種骨移植(非生体) 14,770→18,300 点▲

b. 減点

K035-2 腱滑膜切除 8,790→7,550 点▼

K047-3 超音波骨折治療法(一連につき) 5,000→4,620 点▼

K215 瞼板切除術(巨大霰粒腫摘出) 1,580→1,440 点▼

K223 結膜のう形成手術

1. 部分形成 2,460→2,250 点▼

K229 眼窩内異物除去術(表在性) 9,580→8,240 点▼

K234 眼窩内腫瘍摘出術(表在性) 7,640→6,770 点▼

K291 耳介腫瘍摘出術 5,320→4,730 点▼

K413 舌腫瘍摘出術

2. その他のもの 3,140→2,940 点▼

K421 口唇腫瘍摘出術

2. その他のもの 3,370→3,050 点▼

④DPC 関連

以下の項目の手術・処置等2に J003 局所陰圧閉鎖療法(入院)が定義された。

080250 褥瘡潰瘍

100100 糖尿病性足病変

⑤要望項目のうち次年度以降に持ち越しのもの

画像等手術支援加算

2. 実物大臓器実体モデルによるもの：増点

画像等手術支援加算

1. ナビゲーションによるもの：対象手術の拡大

創外固定加算：対象手術の拡大

ICGによる赤外線蛍光リンパ管・リンパ節造影：新設

陰茎再建術(尿道再建を伴うもの)：新設

乳房縮小術(性別適合手術におけるもの)：新設

2. 外科系学会保険委員会連合(外保連) 関連

①外保連委員

以下のように委員会に所属して活動を行った。

手術委員会 : 関堂委員、二ノ宮委員

(手術委員会) コーディングワーキンググループ : 相原委員

(手術委員会)医療材料・医療機器ワーキンググループ :

前川委員、金子委員長

処置委員会 : 関口委員(委員長)、小室委員、荻野委員

(処置委員会)輸血ワーキンググループ : 関口委員

検査委員会 : 二ノ宮委員、荻野委員

実務委員会 : 関堂委員

なお関口委員は平成 25 年度をもって外保連委員を勇退された。

3. 日本医師会疑義解釈委員会・保険適用検討委員会関連

委員長が委員として参加している。以下の案件について保険適用可との答申を行った。

AO Matrix MANDIBLE Reconstructionシステム:平成 25 年 7 月 17 日

4. 先進医療・高度医療関連

委員長が先進医療技術評価部会に構成員として参加している。形成外科関連の案件なし。

5. DPC 関連

委員長が MDC16 班の班長(形成側)、井砂委員、秋元正宇先生(社保委員外、日本医大北総医療センター)が班員として参加している。

CCP マトリクス勉強会:平成 25 年 5 月 8 日 臨床的に意味のある分類を残しつつ、医療資源必要度が類似したグループをまとめて支払いの簡素化を図るシステムであり、今後導入が検討されている。

第一回班長会議:平成 25 年 10 月 3 日 様式 1 の見直し案の検討を行った。その後 MDC16 副傷病名の整理を行った。

また横断的検討のため以下の様に分担して検討し、MDC6, 7, 8, 9, 10 について意見を提出した。

MDC2 眼:大久保委員

MDC3 耳鼻科:村上委員

MDC7 筋骨:二ノ宮委員

MDC8 皮膚:相原委員(班員)

MDC9 乳腺:矢野委員

MDC14 先天異常:宇田川委員

MDC16 外傷:金子委員長(班長)、井砂委員(班員)、秋元先生(班員、日本医大北総医療センター)

6. 日本小児期外科系関連学会協議会(JPASS) 関連

委員長と鈴木啓之先生(社保委員外、千葉こども病院)の 2 名が参加している。

7. 広報活動

①第 56 回日本形成外科学会学術集会において教育セミナーを開催した。

日時:平成 25 年 4 月 3 日(水) 14:50 から 15:30

テーマ:医療保険制度の改革と形成外科

演者:宇都宮啓氏 厚労省保険局医療課課長

司会:金子委員長

②第 57 回日本形成外科学会学術集会において特別企画を予定している。

日時：平成 24 年 4 月 11 日（金）8:00 から 8:50

テーマ：平成 26 年度診療報酬改定について-厚労省のめざす診療報酬のありかたと形成外科への影響

演者：宇田川委員、関堂委員

司会：大西委員、金子委員長

なお平成 26 年度形成外科診療報酬早見表の配布を予定している。

8. その他

①医療ニーズの高い未承認医療機器等の早期導入に関する要望

オメガスキャナー（レーザー計測装置）について、前年度に申請を行った。その後厚労省側より、形状誘導ヘルメットに変更するよう指示があり 9 月に再提出を行った。なお導入希望企業は U & A 社。

②フィブラストスプレーの新鮮熱傷に対する適応についてメール委員会を行い理事長に答申した。